

Joe の豪ドル道場 (23)

(毎週月、水、金)

—豪州在住、侍ディーラーが豪ドルの真髄に迫る—

<モットー> “豪ドルを国際通貨の枠組みでとらえるとともに、豪ドルに

対する国内、対外要因を豪州市場から直接・徹底分析”

(豪ドル米ドル日足)



(豪ドル円日足)



(米ドル円日足)



(ユーロ米ドル日足)



<長期予想ビジョン>

通貨ペア	半年後(3May2009)の相場予想	予想変更日/実勢レート	変更前予想値/予想日/実勢レート
	0.7300	3 Nov 2008 0.6650	
	76.65	3 Nov 2008 65.50	
	105.00	3 Nov 2008 99.00	
	1.4500	19 Dec 2008 1.4300	1.3500 (3 Nov 2008 時点 1.2700)

<最近の気になる出来事、発言>

出来事	<ul style="list-style-type: none"> 米政府は米自動車産業に対し金融安定化法の資金を活用して計 174 億ドル（1 兆 5500 億円）の資金繰り支援を行うと発表した。（12/19） 日銀は政策金利の誘導目標を引き下げ。0.3%→0.1%。また企業 CP 買取策を発表。（12/19） 米 FOMC で FF 金利の誘導目標を 0.0%～0.25%に引き下げ。（12/16） ECB 利下げ（3.25%→2.50%）、BOE 利下げ(3.00%→2.00%)、スウェーデン中銀(3.75%→2.00%)、RBNZ 利下げ(6.50%→5.00%)（12/5） RBA 利下げ 5.25%→4.25%（12/2） 11/21 早朝 RBA 豪ドル買い介入（5 回目）0.6100 近辺。10 月 24 日、27 日、28 日、11 月 13 日に続く）
発言	<ul style="list-style-type: none"> トリシェ ECB 総裁—政府による追加の財政出動は市民の信頼がなければ積極的な効果がない。（12/23） 白川日銀総裁—景気は悪化しており今後も厳しさを増していく。最近の金融経済情勢は厳しさを増しており金融面から景気を刺激することが必要との判断で一致した。（12/19） 中川財務相—為替レートは市場実勢で決まる。介入を予想しない。→日銀は注意深く為替市場をモニターしている。（12/18） ポールソン米財務長官—他に大きな金融機関の破綻を予測しない。米自動車産業の破綻見たくない。（12/17） オバマ次期大統領—米政府と議会が自動車メーカー救済に向けて方法を見つけることを望む。（12/12）

<キーワード>

リスク値、株安、FF 金利 0.00-0.25%、日銀 0.1%、米自動車産業、雇用不安、米金融不安、米住宅産業、信用収縮、中国財政出動・利下げ、協調利下げ、世界同時不況、RBA 豪ドル買い介入、日銀介入の可能性

<当地の気になる情報>（新設）

na

<今後の注目イベント>

25 日（木）クリスマス、26 日（金）日本雇用統計、CPI、小売統計、30（火）米シカゴ購買部協会景気指数、消費者信頼感指数、31（水）米新規失業保険、1（木）お正月、2（金）

<豪ドル相場解剖>

(大局ー相場力学) 底値圏の三角保合から鍋底形成か

豪ドル (0.60-0.70) 豪ドル円 (55 円-70 円) で三角保合相場となっており、エネルギー蓄積後、再度上昇と見る。

2002 年から始まった上昇トレンドが今年 7 月の高値示現で終わり<0.9848、史上高値 (7/15)、104.47 円 (7/21) >、急激な下降トレンドに転換。10 月下旬 0.6009 (10/27)、55.20 円 (10/24 史上安値) を示現後、11 月 4 日 0.7014、70.51 円まで反発。その後は豪ドル米ドル 0.6077~0.7135、56.83~63.67 円のワイドレンジでの揉み合い相場であった。12 月 19 日 0.7135、63.52 円まで上昇。しかし依然として下部における保合を離れず。

向う半年の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.5700-0.7700、豪ドル円 55.00-80.00

(小局) 急閑散市場の中円クロス強含み

今週はさすがにクリスマス週ということもあり、市場は超閑散。米ニューヨークダウは4日続落となり 8500 ドルを割り込んだ。また上海 CSI も 2000 を割っており主要国の株価は今年を象徴するかのよ
うに軟調裡に幕を閉じそう。ただその中で米ドル円が 91 円近辺まで上げており、豪ドル円も 62 円近
辺にじり高推移しているのは、ニュースではなく円ロングポジションの最後の巻き戻しが出ている模
様。石炭、鉄鉱石輸出関連の豪ドル買い必要な年末まで出る可能性があり、その場合は薄商いで豪ド
ルが上昇ことも考えられる。ただ係る実需以外では益々市場参加者細り活性度が落ちよう。

向う 1 週間の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.6700-0.7100、豪ドル円 60.00-63.00 円

<豪ドル売り・買い指数 (前回の結果一当たり、はずれ一を踏まえて毎回レビュー訂正) >

豪ドルの好・悪材料の相場への影響度を項目別に分類して-10 (最弱) から+10 (最強) まで 独自の手法で数値化したもの。項目数は適宜増減する。今回は 10 項目。理論上総合判断では最強を+100、最弱を-100 となる。各要因は相関 (または逆相関) 関係があるが (たとえば市場センチメントがベアになればセンチメントは売り要因 (-) となるが逆に市場は売りポジションになるので、ポジション調整の可能性から豪ドル買い要因 (+) となるなど)。また同じ要因でも時間が経過すれば影響度は減少または消滅すると考える。

客観情勢の「目安」となる変動要因の数値化で現状を判断することが主眼。

-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

構成要因	ポイント	今回数値	前回数値
豪州ファンダメンタルズ (経済・政治)	*Goodー大幅利下げ、財政黒字、政府景気刺激策 *Badー11月の就業者数-15.6千人、景況感大幅悪化、RBA 四半期金融政策報告で今年の成長率1.5%に下方修正、消費・住宅部門低迷、雇用市場懸念、輸出減少	-3	-3
市場センチメント (リスク値に対する円キャリーポジション造成・解消など)	株価軟調から再度ベアセンチメントも。	-1	+1
短期筋推定市場ポジション (キャリートレード、IMMポジションなどから判断)	IMMの豪ドル売りポジションは小額。年末控えてポジションの偏りあまりなし。	0	+2
商品相場	原油 39 ドル、金 840 ドル。CRB215に下落。	-2	-2
金利	12月 RBA1%利下げ。金融緩和継続を織り込みつつ打ち止め感出るか。10年債米豪利回り格差2%に拡大	+2	+2
需給	年末の来年度鉱山関係手当買いあるも徐々にカバーされつつある。麒麟の地場飲料会社買収交渉中。(5000億円相当) その他豪鉱山買収計画、British Airways による QANTAS 買収計画などもあり。	+2	+2
テクニカル (チャート)	移動平均線 (長期) 依然下向き。豪ドル米ドルはボリンジャーバンド (0.6277-0.7042) と一目均衡表の雲 (0.6448-0.7239) の中におり雲が厚く上値抵抗感。豪ドル円もボリンジャーバンド (59.18-62.29) 内だが雲の下限が 62.14 と垂れており、雲に突入するかどうか。RSI 豪ドル米ドル 55%、豪ドル円 54%とほぼニュートラル。豪ドル米ドル、豪ドル円共に鍋底となるか?	+1	-1
その他	RBA、61セント台で5度目の介入 (11/21)、	+1	+1

	11/13には63セント台で介入。介入警戒感残る。 米株式市場4日続落。 米自動車ビッグ3のつなぎ融資まとまる。	-2 +1	-1 +1
総合判断	年末で動意乏しい	-1/±100	+2/±100

(*Good, Badは豪ドルにとってという意味)

<結論、今後の戦略> 市場の大きなポジションの偏り解消。一戦終了

7月に98セント台、104円台まで上昇した豪ドル相場からすれば68セント台、61円台はやはり“底値圏で越年”という表現になるのであろう。さすがに12月に若干ポジション調整の豪ドル買戻しは見たものの、10月以降リスク回避の嵐が吹きまくり、しかも世界景気は来年に向けて更に悪くなるという客観情勢下においては、まあこんなものであろう。ただ景気は消費者信頼感指数や企業信頼感指数などセンチメント系の先行指数にも大きく影響を受ける。来年1月にオバマ新大統領が市場に希望を与えられるか？楽観主義者は市場回復の一つの大きな機会ととらえよう。また悲観論者は米国の財政赤字の拡大、企業倒産の激化、米ドルからの資金逃避などから“米国売り”が進み、更に世界同時不況の深刻化を説く。いずれにしても一国の物理的な滅亡はありえないし、インターネットで瞬時に世界中がニュースを共有できる昨今、それなりのセフティーネットは用意されようし、必要以上の悲観論は杞憂に終わる気がするが。

なお、今週金曜日26日はBOXING DAYで主要市場も休場となるため、“今年の豪ドル相場レビューと来年の見通し”などお伝えいたします。

本日の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.6730-0.6850、豪ドル円 61.00-62.00

<懺悔の部屋>—過去の失敗から学ぶもの—

(心理面、技術面、チャート分析の3点より)

(その二十二) 東京、ロンドン、ニューヨーク市場の対抗心 (技術面)

東京(シドニー)市場で上げていた豪ドルが東京の夕方、つまりロンドン市場がオープンになる頃からにわかに反落することが結構ある。これは下げ相場が反発する場合も同じ。またこれはニューヨーク勢が参入してくるロンドンの午後、またニューヨーク勢が帰り始める東京の朝にも言えること。もちろんそれぞれの市場参加者が帰宅前に一日のポジションを閉じて帰るのも原因の一つ。もう一つは、小職が昔から思っていることであるが、それぞれ東京、ロンドン、ニューヨーク市場参加者の他市場への対抗心がそうさせるのではあるまいか？つまりロンドンの連中は「東京で豪ドルが買われたから、ポジションあぶり

出しも含めて売りつぶそう」というような、前の市場に対する対抗心のようなものがある気がしてならない。というのは実際に小職がロンドンにいた頃はよく“Far Eastの連中、特に東京はサラリーマンディーラーだから相場を動かせない”とかニューヨークの連中は“ロンドンはコンサーバティブだから大胆に攻められない”とか他市場を見下した態度が散見された。もちろん市場は1つで一日中つながっているし、また昨今の相場のように大きなニュースなどで乱高下しているときは東京市場もロンドン市場もない訳で相場は一体となる。ただ平時においては東京、ロンドン、ニューヨークのそれぞれの市場のオープニング時間には心の隅に“各市場対抗心”の話も置いておいていただきたい。